## 高額療養費外来 年間合算の支給申請

外来療養に係る年間の自己負担額が一定額を超える場合、その超える額を支給します。

■**対象**　国民健康保険加入者（70歳以上）または後期高齢者医療制度加入者で、次のすべてに当てはまる人
- ▶令和3年7月31日時点の所得区分が一般・低所得
- ▶令和２年８月～令和３年７月の外来療養に係る自己負担額が144,000円を超える

■**申請方法**　12月中旬に送付される申請書に必要事項を記入し、返信（加入保険を変更した人には、申請書が届かない場合があります）

■**問い合わせ**　保険課保険係　☎38-2035／後期高齢者医療係　☎38-2037／兵庫県後期高齢者医療広域連合事務局　☎078-326-2023

# 募　集

## パブリックコメント（市民意見）の募集

**【環境処理センター施設整備基本構想】**
焼却施設・資源化施設の老朽化にともない、適正・安定処理のため、新たなごみ処理施設を整備します。
環境施設課　☎32-5391/FAX22-1599

**【一般廃棄物処理基本計画】**
持続可能な社会の実現に向けた、指定ごみ袋の導入等も含めたごみ処理に関する計画
環境施設課　☎32-5391/FAX22-1599

**【第4次地域福祉計画】**
誰もが自分らしく心地よく暮らせる地域共生社会の実現に向けた、まちづくりを進めるための計画
地域福祉課　☎38-2153/FAX38-2160

**【市立芦屋病院新中期経営計画】**
令和４年度～８年度の経営計画
芦屋病院総務課　☎31-2156/FAX22-8822

■**募集期間**　12月17日～令和４年１月25日

■**提出方法**　計画名・住所・氏名・電話番号（ファクス）を記入し担当課へ持参（平日・執務時間内）または郵送（〒659-8501住所不要）・ファクス・Eメール（info@city.ashiya.lg.jp）※口頭は不可

■**原案の閲覧場所**　市ホームページ・各担当課・市役所北館１階行政情報コーナー等

■**意見の公表**　市の見解と共に市ホームページ等で公表（氏名等は非公表）予定。個別の回答は行いません。

## 令和２年度 芦屋病院事業会計決算報告

**問い合わせ　芦屋病院　☎31-2156**

令和２年度は、入院患者数54,869人と前年度より8,670人減少、外来患者数69,650人と前年度より12,345人減少しました。経営状況は、病院事業収益57億6,643万円、病院事業費用は54億5,405万円で、差し引き３億1,238万円の純利益（前年度△6,145万円）となり、累積欠損金は119億452万円となりました。概況としては、新型コロナウイルス感染症のパンデミックから、市民の命と健康を守るため、市の中核病院として新型コロナウイルス感染症への対応に取り組みました。一方で、地域で求められる医療を安定的に提供するため、院内感染対策を講じながら、24時間365日の救急受入体制の確保、人間ドックや健診等の再開など、通常通りの入院・外来診療機能の継続に努めました。また、医療者の確保にも注力し、血液・腫瘍内科、消化器内科、外科に部長級の医師が新たに着任し、呼吸器内科の非常勤医師を増員するなど、外来診療機能の充実を図りました。その他の取り組みとしては、安心して出産・子育てができるよう、退院直後に支援が必要な母子の健康管理などを専任の助産師が行う「産後ケア事業」を市の委託事業として開始しました。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響から、営業収益が著しく減少し、厳しい資金状況が続きましたが、市からの資金手当ての補助金、国からの新型コロナウイルス感染症関連補助金の交付等により、前年度に比べて営業収支は大幅に悪化したものの、純損益では黒字となりました。

産後ケア事業

| | | 令和２年度 | 増　減 |
|---|---|---|---|
| 入院 | 延べ患者数 | 54,869人 | △ 8,670 人 |
| | 一日平均患者数 | 150.3人 | △ 23.3 人 |
| | 病床稼働率 | 75.5% | △ 11.7% |
| 外来 | 延べ患者数 | 69,650人 | △ 12,345 人 |
| | 一日平均患者数 | 286.6人 | △ 52.2 人 |
| | 診療日数 | 243日 | 1日 |
| 病院事業収益 | | 57億6,643万円 | 4億6,066万円 |
| 病院事業費用 | | 54億5,405万円 | 8,683万円 |
| 純損益 | | 3億1,238万円 | 3億7,383万円 |
| 累積欠損金 | | 119億452万円 | △3億1,238万円 |

## 令和２年度 水道事業会計決算報告

**問い合わせ　水道管理課　☎38-2080**

令和２年度の給水人口は、93,840人で前年度より337人減少しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による在宅時間の増加に伴い、１人１日当たりの使用水量は、９ℓ増加し302ℓとなり、料金収入となるべき有収水量は323千㎥（3.2%）増加して10,499千㎥になりました。事業収益は、水道基本料金減免の実施による給水収益の減少などにより３億4,922万円（16. 5%）減少して17億7,364万円となりました。一方、事業費用は、人件費、受水費等の減少により4,526万円（2. 4%）減少の18億2,164万円で、差引収支は4,800万円の純損失となりました。今後も、人口減少や節水機器の普及などによる収入の減少が見込まれる中、老朽管の更新工事などによる経費の増加が見込まれており、水道事業を取り巻く経営環境は厳しい状況です。事業面では、「芦屋市水道ビジョン」、「芦屋市水道事業経営戦略」に基づき事業運営を行い、計画的に老朽管更新工事、施設の耐震化を進めていきます。令和２年度は本市最大の容量を持つ低区配水池の耐震化工事に着手しました。これからも、持続的に安心・安全な「おいしい水」の安定供給に努めていきます。

100年間耐用の耐震管

| | 令和２年度 | 増　減 |
|---|---|---|
| 給水人口 | 93,840人 | △ 337人 |
| 総配水量 | 10,498,989㎥ | 103,638㎥ |
| 自己水量 | 1,108,119㎥ | △ 59,872㎥ |
| 阪水受水量 | 9,390,870㎥ | 163,510㎥ |
| 有収水量 | 10,387,687㎥ | 322,694㎥ |
| 有収率 | 98.94% | 2.12% |
| 水道事業収益 | 17億7,364万円 | △3億4,922万円 |
| 水道事業費用 | 18億2,164万円 | △ 4,526万円 |
| 純損益 | △ 4,800万円 | △ 3億396万円 |

総配水量……１年間に芦屋市内へ配水した水の量
自己水量……芦屋市の浄水場でつくられた水の量
阪水受水量……阪神水道企業団から供給された水の量
有収水量……総配水量のうち料金徴収の対象となった水の量
有収率……総配水量に占める有収水量の割合

## 令和２年度 下水道事業会計決算報告

**問い合わせ　下水道課　☎38-2064**

令和２年度の事業収益は30億8,763万円、事業費用は26億5,448万円で４億3,315万円の純利益となりました。新型コロナウイルス感染症独自支援策として全世帯に対し６カ月間下水道使用料の減免を行ったため、下水道使用料収入は減少しましたが、国から交付される新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を一般会計からの繰入金として収入しました。事業面においては、老朽管渠更新工事や高潮対策工事としてフラップゲートの設置を行いました。また、芦屋下水処理場では汚水ポンプ整備工事を行い、施設の機能保全に努め、大東ポンプ場では雨水ポンプ整備工事や沈砂池耐震補強工事を実施しました。令和２年度決算では黒字を確保できましたが、今後は人口減少に伴う下水道使用料収入の減少や、老朽管の更新、自然災害に備えるための施設整備等の費用の増加が見込まれるため、経営は厳しい状況にあります。経営戦略及び下水道ストックマネジメント計画を活用して、将来にわたり安定した経営に努めるとともに、安心して快適に暮らせる下水道事業の運営を目指していきます。

フラップゲート

| | 令和２年度 | 増減 |
|---|---|---|
| 処理区域内人口 | 95,277人 | △166人 |
| 汚水処理量 | 17,003,896㎥ | 2,057,733㎥ |
| 有収水量 | 10,768,958㎥ | 307,647㎥ |
| 経費回収率 | 94.77% | △13.44% |
| 汚水処理原価 | 81.35円/㎥ | △2.96円/㎥ |
| 下水道事業収益 | 30億8,763万円 | △6,874万円 |
| 下水道事業費用 | 26億5,448万円 | △3,397万円 |
| 純損益 | 4億3,315万円 | △3,477万円 |

有収水量……下水道使用料徴収の対象となる水量
経費回収率……下水道使用料／汚水処理費×100
汚水処理原価……汚水処理費／有収水量×100